

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「ムクロキタン「フェイスブック」」

テーマ：「見た目も頭もいいのに、現実に飽き飽きな美少女」

キャラクター

60

ストーリー

65

テーマ(設定)

70

文章力

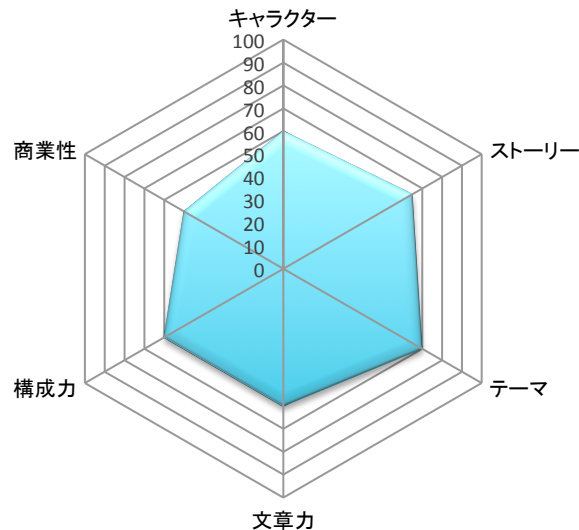
60

構成力

60

商業性

50



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものが無い

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・「骸奇譚(?)という解釈で良かったか。フェイスブックという言葉を面談コレクション的な意味合いで用いるのは面白い発想だと感じた。
 ・「物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている」について、正確には「登場させ過ぎているのはいいが、それに関する説明があまりない」。例えば骸先輩の正体などがそれに該当。骸先輩が強いことはとりあえずよく伝わって来たが、「結局こいつは何者だったんだ」感はある。もう少し説明が欲しかった。ただそれが分からないことがまた奇譚らしい世界観の演出にもなっていたりする。安易に説明するとそれはそれで安っぽくなる。もう少し難しい点ではあるが……ただ「骸先輩何者？」という懸念を付け置きながら読み手を切り落とすような構成にはなっている。例えばミズキに「あなたは誰者？」と言及を最期にさせて、それに先輩がただ笑って答えるシーンなど(説明し忘れたんじゃなくて説明する気はないから想像してねという暗黙のメッセージ)などを入れるといった工夫があっても良かったか。
 ・冒頭、ミズキがサチとアヤミの会話を通じて普通の女子学生っぽく描かれて過ぎていたため、ミズキが突然現れたドラや骸先輩に順応してしまっている点に違和感。例えば冒頭シーンで「ミズキどうやってそんな点数取れるの。教えてー!」「えーヤマがあたっただけだ!」「私は口をふさぎ止める。知らねえよ。」「それにさ〜」など、突然読み手がミズキに「こいつ何かおかしい」と思わせられるような描写を瞬間入れられれば、何かおかしい世界観にミズキが入って行く事もより自然に演出できたのではないかと感じた。
 ・正直このような些細な点を除いて指摘すべき点は見つからなかった。文体そのもので世界観を確立させているあたりは面白いしすごい一言。

合計加点ポイント 0

総得点: 365 / 600

B方式総合得点: 22204 点